

ひんやりリンゴを味わう

2月4日（木）、鶴田小学校5年生がリンゴ農家の中野光彦さん（妙堂崎）の自宅の敷地内で、昨年12月から雪の中で貯蔵している「雪室リンゴ」の掘り出し体験をしました。

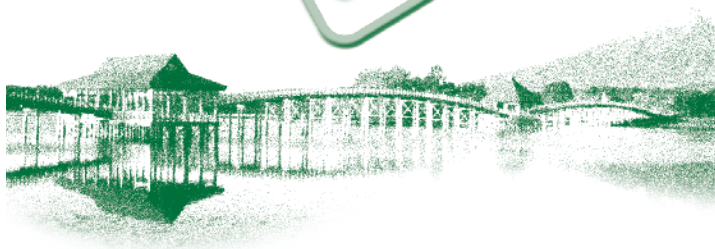
授業でリンゴについて学んでいる5年生38人が中野さん方を訪問。児童たちはスコップを使い、雪室から「ふじ」「葉取らずふじ」、袋をかけて日光に当てずに育てた「ホワイトふじ」3種6箱を掘り出しました。

掘り出したリンゴを試食した児童らは「おいしい」「冷たくて甘い」など歓声を上げていました。

中野さんは「雪室の中は一定の温度と湿度に保たれているので、リンゴのみずみずしさが維持できる」と児童らに説明していました。



△掘り出したリンゴを手にする児童たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

農業大学でりんご防除学ぶ

町の農業者を対象にした「農業大学講座」が2月17日（水）、町農村環境改善センター豊明館で開催されました。

講座は例年3日間の日程で実施してましたが、今年度は感染症防止のため、内容を米とりんごに絞って1日のみの開催。講座では、県西北地域県民局の白川主幹がりんご黒星病の新たな薬剤の散布時期、希釈倍率などについて解説。黒星病の発生は減っているとしながらも「黒星病に限らず薬剤耐性菌は出るので、散布時期・回数を守らないと薬剤の寿命を縮めることになる」と適正な使用を呼びかけていました。

このほか、米価低迷の対応策として町の振興作物の紹介などを行いました。



△りんごの防除薬剤について学ぶ受講者たち

昔ながらの遊びに親しんで

2月19日（金）、町生活改善グループ連絡協議会（小野寺のり子会長）は、町内の児童に昔ながらの遊びに親しんでもらおうと、町役場教育長室を訪ね、手作りのお手玉 500 個を町教育委員会に寄付しました。

寄付は 20 年以上前から毎年行われており、会員らが 1 年かけて制作。和柄の端切れの中に黒大豆を入れて、色とりどりのお手玉に仕上げました。このお手玉は鶴田小学校やサンシャインスクール（放課後教室）などで使われる予定です。

寄付をしたメンバーらは「子どもたちみんなでお手玉を楽しんでもらいたい」と話し、お手玉を受け取った中野教育長は「毎年寄付をしてくださり大変うれしい。できればこれからも続けていただきたい」と感謝を述べていました。



△中野教育長にお手玉を贈呈した生活改善グループのメンバー



△相川町長に大会での活躍を報告した選手たち

東北大会での活躍誓う

1 月に弘前市で行われた「第 41 回ジュニアアルペンスキー東北決勝大会青森予選」で優勝を含む好成績を挙げた鶴田ジュニアレーシングの小中学生 4 人が大会前の 2 月 25 日（木）町役場を訪れ、相川町長に活躍を報告しました。

- ・男子アンダー 16 第 1 位 三浦大門選手
- ・男子アンダー 12 第 1 位 松江伶恩選手
- ・男子アンダー 12 第 2 位 相馬新大選手
- ・男子アンダー 10 第 4 位 田村辰喜選手

相川町長は「自分の頑張りはもちろん支えてくれた人みんなの成果だ」とねぎらいの言葉をかけました。

東北大会に出場する松江君は「強気の滑りで 1 位をとれるように頑張ります」と誓い、田村君は「初めのでの東北大会。6 位以内に入りたい」と抱負を語りました。



Vol.32 (筆: 川口翔大)

先日、富士見湖パークの散策ガイドツアーのモニターに参加してきました。今回は冬季バージョンということで、雪を絡めた催しが用意されていて夏期とはまた違う面白さがありました。かんじき(※)をはいて雪の上を歩いたのは初めての経験で楽しかったです。観光で鶴田町に来てくれた方もきっと満足してくれると思いました。

移住する際、雪についてはある程度覚悟していたつもりでしたが、風は想像より強くて、吹雪にも心折れそうですが、もう少しで春なのでもう一息頑張ろうと思います！

※雪の中に足が深く入るのをさけるために、はきもの下につけるもの



△ツアーでかんじきを履いているようす

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。